

2019 年度（令和元年度）

事業報告書



目 次

2019 年度 事業計画の方針・重点事業	3

公益Ⅰ. 環境教育事業	4
1. 清泉寮やまねミュージアム	
2. フォレストーズ・スクール	
3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター (指定管理事業)	
4. 環境省日光国立公園「那須平成の森」	
5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
6. 環境研究所	
7. 地域における環境教育事業	
公益Ⅱ. 酪農事業	8
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 実験農場として	
公益Ⅲ. 研修交流事業	10
1. 清泉寮	
2. 自然学校	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業	13
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 保育事業	15
1. 保育の質の向上	
2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
3. 自然のリズムを大切にした食事(給食)の推進	
4. 他部署(自然学校及び環境教育事業部)との協働	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 視察・研修の受け入れ	
7. 保護者や地域の方々との協働	
8. 卒園児のバックアップ	
収益Ⅰ. 製販事業	16
1. 収支動向	
2. 重点業務	

3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. ホテル事業	18
1. 清泉寮	
本部（管理部門）	19
企画	
1. 企画関連業務	
2. キープ協会全体の情報発信体制の強化	
3. 募金の管理業務	
総務	
1. 職員教育訓練業務	

2019 年度事業計画の方針・重点項目

公益事業に係る中長期計画に基づき、2019 年度事業計画を検討・実施します。

■公益事業アクションプラン

1. 教育機能の強化：

キープ協会全体を学校と捉えて、教育研修、環境教育、保育等を通じて、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出します。

2. 農場の機能強化：（一番美しい牧場プロジェクト）

農場施設の整備を進めるとともに、景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実させます。

3. 環境保全型運営：

キープ協会全体の廃棄物量を削減します

【収益事業重点項目】

公益財団法人としての活動を支える収益体制の確立

1. お客様を迎える体制整備：

清泉寮ジャージーハットを中心に、より多くのお客様を受け入れるために各営業施設の整備と利便性の向上に取り組みます。

2. 収益力強化：

各事業部の営業力を強化し、効率的な事業運営を目指します。

3. 人材の育成：

社宅を整備すると共に「働き方改革」に取り組みます。職員教育に取り組み様々な研修を実施するとともに、業務の見直しを行い、職員が働きやすい職場環境作りに取り組みます。

公益 I . 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した。

1. 清泉寮やまねミュージアム

(1)清泉寮やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、環境教育・環境保全策の普及

(2) 2019 年度の重点目標

清里及び国内各地での調査研究の実施・推進と研究成果の論文発表・学会発表・シンポジウム・国際会議・館内展示等で発信と国際連携

(3)2019 年度の事業実績

①ヤマネの総合的な研究の実施（国内外）

②県内外における環境影響評価に関する調査業務 請負

③研究成果を活かした環境教育プログラムの研究開発と実践

④「やまねミュージアム」の管理運営・ヤマネに関する環境教育の実施

1：展示内容の更新

2：館内にて、来館者に向けて研究者による季節ごとにテーマを変えたギャラリートークの実施。

⑤樹上性動物保護の具体策「アニマルパスウェイ(ApWA)」の普及(一般社団法人 ApWA と野生生物の会 構成員としての活動)

1：アニマルパスウェイと野生生物の会と共働で海外の学者を招聘し、ミニシンポジウムを開催

2：北杜市における新たなアニマルパスウェイ建設のための検討の継続

(4)開館日数、入館者等の実績

表 1：2019 年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2019 年度	2018 年度	増減／昨年比
年間開館日数	291	289	-2 日
入館者数	15,951	18,026	89%
1 日平均入館者数	54.8	62.3	88%
利用団体数	57	62	92%
団体利用者数	2,051	2,232	92%

2. フォレスターズ・スクール

(1) フォレスターズ・スクールの役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供および研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2019年度の重点目標

1. 新規ニーズの獲得
2. 実践の見える化
3. リスクマネジメントの強化と徹底

(3) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。(表2参照)

表2：2019年主催事業の実績

	2019年度			
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	10	274	12	302
日帰り型環境教育プログラム	35	537	25	501

(4) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れた。(表3参照)

表3：2019年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	立教学院、立教女学院、聖心女子学院、山梨学院短期大学、山梨県内外小中学校、北杜市立甲陵高等学校
	行政関係	北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、青年海外協力協会
	一般	サントリー、電源開発、中部電力、さっぽろ青少年女性協会
合計	277事業	

(5) 指導教育

職員のスキルアップのための研修を行った。事業部として1名の実習生を迎えた。また、4名(国際自然環境アウトドア専門学校、立教大学、都留文科大学)のインターン生を受け入れた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良い環境の保全と継承に貢献します。

(2) 2019年度のテーマ＝八ヶ岳

(3) 2019年度の事業実績

主催事業の実施(利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログ

ラム、年度テーマに沿った講座等の各種企画事業、館内展示、映像上映等)、施設及び設備の維持管理、自然ふれあい施設としての機能(自然調査、教材開発)、周辺の文化施設や地域にあるネットワークとの連携、ボランティアとの協働、利用促進業務、自主事業(環境教育関連書籍やグッズの販売、スノーシューの貸し出し等)の実施

(4)開館日数、入館者等の実績

表4：2019年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2019年度	2018年度	増減/昨年比
年間開館日	291	321	▲30/91%
入館者数	99,668	109,644	▲9,976/91%
開館(1994.11)以来の 総入館者数	2,314,829	2,215,161	
1日平均入館者数	343	342	1/100%
利用団体数	225	233	8/97%
団体利用者数	12,086	13,199	▲1,113/92%
プログラム回数・参加者数	435/18,019	489/18,949	回数▲54/89% 参加者数▲930/95%

※10/12(土)台風19号接近に伴う臨時休館

※2/27(木)～3/31(火) 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

4. 環境省 日光国立公園 那須平成の森

(1)事業実績

①全体

第3期の3年目(1期2期を合わせ9年目)の業務実施、人材育成事業の実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務(自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上)、国立公園満喫プロジェクト事業への協力および実施。

また、栃木県のアフターデスティネーションキャンペーンに関連して、環境省、栃木県、那須町、JR、観光協会等に協力し各種事業を実施した。

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育人材育成事業の実施、屋内外の展示制作、国立公園の環境管理

(2)開館日数、入館者等の実績

表5：2019年度那須平成の森の実績

	2019年度	2018年度	増減
●那須平成の森			
年間開館日	298	324	-26
入館者数	45,739	49,570	-3,831
(内、立寄り団体利用者数)	6,426	7,493	-1,067
(公募)個人利用者向け利用者負担	1,218(196回)	1,496(249回)	-278(-53)

プログラム参加者数(※)			
(※)=がイワーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理(モリタング)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数(※)	2,545(447 回)	2,572(478 回)	-27(-31)
(※) = 運営会設定の実施回数=180 回			
(受託)団体利用者向け利用者負担プログラム参加者数	1,673(65 団体)	1,541(57 団体)	132(8)

※3/3～31の期間、コロナウイルスの影響による臨時休園

5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行いました。

- (1)地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
11 事業 13 日間出展、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2)地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う
民間団体の活動支援
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会 2 回実施、関東ブロック合同研修会への参画、地域協議会交流会の開催、ホームページ・通信等での広報協力等
- (3)日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言 243 件 推進員・行政関係者・県民等件対応
- (4)日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供

6. 環境研究所

環境教育事業部の柱の 1 つとして、事業部横断的に活動を行った。

- (1)環境保全研究
主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は 1 参照）。
- (2)環境教育研究
環境教育プログラム集の編集を進め、学会などでの発表を行った。

7. 地域との環境教育事業

(1)地域との環境教育事業

保育事業部・研修交流事業部と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレスターズ・スクール事業にて、北杜市内全園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、県内各種イベントでの出展事業を行った。

公益Ⅱ. 酪農事業

1. 生産農場として

(1) 牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 85 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。

そのうち 45 頭の搾乳を行い、総生産量 153,565 kg の牛乳を生産した。

その殆ど（145,565 kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全の牛乳として高く評価されている。

(2) 草地管理面積約 72 ha（採草地 45 ha、放牧地 25 haその他 2 ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し有機 JAS 認定の牛乳生産維持に努めた。

(3) 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2019 年度	2018 年度	増減
成牛	50	49	1
育成牛	31	33	△2
哺乳牛	4	4	0
合計	85	86	△1
内 搾乳頭数	45	46	△1
総生産量	153,565 k g	156,324 k g	△2,759 k g

2. 教育農場として

(1) 農業体験

教育農場としての役割を果たすべく、日本大学生物資源科学部（5名）、全国酪農ヘルパー協会（5名）、合計 10 名の学生の牧場実習をうけいれました。またゴールデンウィーク、夏休み期間中で清泉寮ファームショップ前でイベントを実施しました。また製版事業部、企画部とともに『冬のハイライド』を実施し、牛乳を PR した。

3. 実験農場として

(1) 関係機関等との連携

山梨県では酪農経営の安定のため、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健所、山梨県畜産協会、家畜改良協会、家畜共済組合、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力。

また山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し酪農環境負荷軽減事業を実施した。

(2) 雄仔牛等の肥育

雄仔牛、交雑種など牛乳生産には向かない牛を肥育し牛肉を生産し、製版事業部など

の食材としての利用を試みた。

(3) 野菜等の栽培

大根（800本）、サツマイモ（200kg）、イチゴ、シイタケ等を栽培収穫して清泉寮レストラン、保育園等に食材として販売した。

(4) 防疫対策

農場周辺に日々の消毒に努めている。

公益Ⅲ. 研修交流事業

1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の中核施設としての使命と役割を果たすとともに、事業の継続・発展のためにも財政健全化に寄与する運営を目指した。

- (1) 5月1日の改元を記念した書道パフォーマンスを開催したのを皮切りに、5月・7月・8月・12月に計7回のコンサート、1月の書道パフォーマンスといったイベントを開催し、地元を中心に多くの集客を図った。
- (2) 6月に地元高校からの要請に応じての学園祭へ出店、3月に地元酒蔵と連携した宿泊パックを設定するなど、地域との連携を推進した。
- (3) 8月にアジア・ジュニアユースオリエンテーリング選手権大会、12月に日本政府観光局主催の日中友好フォーラム、それぞれのセレモニーやパーティーを受け入れるなど、公的機関との連携と協力に実績を残すことができた。
- (4) 研修利用に際して求められる設備・食事・プログラム・スタッフなど、受け入れ体制を整え、積極的な営業活動を行うことにより、学校、企業を始め、より多くの研修団体の獲得に繋がった。下記の実績数値には、10月の台風に伴う交通遮断、2・3月のコロナウイルスに因るキャンセル（計12件、786名）の影響が生じておりますが、実質的にはほぼ前年度に近い数値となった。
- (5) 地域生産者との連携を深めた上で、できる限り地元の食材の利用を図るとともに、既成の加工品をできる限り使用しない手作り料理の提供を推進したことにより、地産地消や食の安全といった観点からも顧客の大きな支持をいただくことができた。
- (6) 行政機関の協力や指導を仰ぎ、今後の事業継続に向けた施設の修繕計画を進めた。築10年を迎えた新館やコテージについても昨年に続いて修繕計画を実施し、暖炉の煙道の大規模な清掃や経年劣化箇所への補修などを行った。引き続き法令に則った安全安心な施設運営を進めると共に、利用者の利便性・快適性にも応えながら施設の稼働を向上させていく。

(団体主要数値)

	2019年度	2018年度	増減／前年対比
宿泊団体数	208件	223件	△15件
宿泊団体利用人数	13,505人	14,144人	△639人

※コロナウイルスの影響により、中止・延期により前年対比減。

2. 自然学校

自然体験を重視し、団体対応利用に特化した清泉寮の兄弟施設して、財政健全化を図りつつ実験的な取り組みを行った。

- (1) 通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月～9月)営業のキャンプ場と、2つの施設を管轄し、団体の受入を積極的に行いました。体験・食事などに関しても、効率的な運営体制を図った。
- (2) バリアフリーの構造、地元農家と連携した、安心・安全で健康的な食事の提供、低廉な価格設定といった特長を生かし、アレルギー対応や体験内容も幼保・学校・福祉・研修といった団体の要望を出来る限り受け入れる事に力を入れ、団体営業と共に稼働の向上を図った。
- (3) 「森のようちえん」「やまもりキャンプ」といった看板企画をはじめ、食や自然をテーマとした主催キャンプの実施を行うと共に、受託から派生したグループ・団体と協働した「梅畑」「味噌づくり」など、特に親子キャンプを広く展望した上でのジャンル開発の「森のかぞくキャンプ」進めた。
- (4) 公益事業として、昨年から引き続き今年度も長坂子ども食堂へ乳製品の提供を行う。

(団体利用実績)

	2019 年度	2018 年度	増減/前年対比
宿泊団体数	190 件	201 件	△11 件
自然学校	150 件	163 件	△13 件
キャンプ場	40 件	38 件	+2 件
宿泊団体利用者数	14,128 人泊	14,252 人泊	△124 人泊

※コロナウィルスの影響により、中止・延期による。

△11 件 △224 人

(主催企画実績)

	2019 年度	2018 年度	増減/前年対比
主催企画数	7 企画/25 回	7 企画/28 回	△3 回
参加者数	1288 人泊	1,326 人泊	△38 人泊

※コロナウィルスの影響により、中止・延期による。

企画回数 △3 回 △138 人泊

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の根幹であるポール・ラッシュの業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、財団の広報・教育機能の一端も担い活動した。

- (1) ポール・ラッシュ精神の継承と伝道および、業績や歴史を紹介する通常の開館業務のほか、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続を発展的に進め、収蔵資料や美術品の保存・管理業務を行った。同時に、国内外でのラッシュ関連の資史料の探索、発見、収集に努めた。これらの活動は、次年度以降も継続する。
- (2) 時期ごとに変化のある企画展を年数回行うと共に、特別企画展の開催を行った。
 - ① 5 月～3 月：米国 Berea 大学のインターン生の実習展示「ケンタッキーダービー」展を行った。
 - ② 8 月～9 月：北杜市と地域振興団体と協働し、「清里駅前 C56 メイクアッププロジ

ェクト写真」展を開催した。

③9月～10月：ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2019に合わせ「カンティフェアポスター」展を行った。

④11月～12月：国際交流の一環で、フィリピンからのインターン（アーティスト）に作品を発表する場の提供し、「ソイルアート 大自然や聖霊の民話」展を開催した。

⑤12月～1月：県内社会福祉施設の入寮者の方々の作品を取り上げた企画展「青い鳥成人寮のうつわ」展を開催した。

(3)博物館施設として、県・市や対外的な機関との連携や、メディアやSNSを駆使した広報活動を積極的に展開した。

(4)教育普及プログラムの開発と実施を計画し積極的に催行した。

①「ポール・ラッシュの手記を読む」(月一度開催の朗読と講義の講座)

②「聖書カフェ」(月一度開催の聖書読書会)

③「ロザリオづくりワークショップ」(毎日開催)

④「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」(毎日開催)

⑤「古写真を用いたフットパス」(季節開催)

⑥「ミュージアムツアー」(学校・企業団体様向け)

⑦「ソイルアート・ワークショップ」(企画展と連動)

⑦「アウトリーチ活動」(県内の学校・清里で研修をする学校団体への講義、1月3日に東京ドームで開催された「ライスボウル」へ出張パネル展示)

(5)インターン生の受入

①Berea 大学(アメリカケンタッキー州)から1名。5月から7月まで。日常業務の他、展示指導や日本語教材の補助指導を行った。

②コーディネエラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)から2名。10月から12月。国際事業部と連携。企画展、日常業務を行った。

(6)ポール・ラッシュ奨学金

①立教大学でボランティア活動を行う学生を対象に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金として年額50万円を3名に給付した。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2019年度	2018年度	増減／昨年比
年間開館日数	313日	327日	△14日／96%
入館者数	11,167人	8,471人	2696人／131%
1日平均入館者数	35.6人	25.9人	6.1人／137%
団体数	87件	83件	4件／104%
団体入館者数	3,480人	3,425人	55人／101%

※3/5(木)～3/15(日) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成および地域社会への貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO、教会関係団体等の多様なコミュニティと連携し、事業内容の充実と発展に取り組んだ。

(1) 北杜市米国ケンタッキー州姉妹地域間交流事業 【北杜市受託事業】

北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力した。

① 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業

訪米 2019年5月、10日間／派遣14名（団員12名・事務局2名）

② 北杜市中学生米国ケンタッキー州マディソン郡ホームステイ派遣事業

派遣 2019年7-8月、9日間／派遣12名（北杜市中学生10名・引率者2名）

③ 米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業

受入 2019年10月、8日間／受入15名（代表団13名・文化交流1名・クラフト3名）

④ 日米文化交流員派遣・受入事業

a.北杜市文化交流員派遣 派遣期間 2019年5月、8日間／派遣 1名

b.マディソン郡文化交流員受入 受入期間 2019年10月、6日間／受入 1名

⑤ 子ども絵画交流

日米小学4～6年生対象、日米各20作品選出

巡回展示 2019年5月～9月（マディソン郡内）、10月～2019年2月（北杜市内）

(2) 国内外のインターン生の受入れ

国内外から青少年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図った。

① 海外インターン生（5～12月）

ベリア大学（米）、リール大（仏）、コーディレラ・グリーン・ネットワーク（比）各2名

② 国内インターン生（8～9月）

立教大学（経営学部・経済学部・観光学部・文学部・現代心理学部）、岐阜県立森林文化アカデミー、国際自然環境アウトドア専門学校、都留文科大学文学部 各1名

(3) 主催英語プログラムの実施

海外インターン生と協働し、国際交流をキーワードに地元地域や首都圏の子どもたちへ国際理解のための英語プログラムを実施した。

① 地域英会話プログラム（4～7月、10～12月、1～2月※ 週2回実施）

② 清里イングリッシュキャンプ（6～7月、11～12月 計6回実施）

※地域英会話プログラム3月の実施分は、新型コロナウイルスの影響により中止。

- (4) 北杜市立甲陵高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業への協力
甲陵高校の設定した課題「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」をテーマに、英語による環境教育プログラムを提供した(9月)。また環境教育事業部では日帰り授業を実施した(4~9月)。
- (5) キープ・アメリカ後援会(ACK)との協働事業
絆プロジェクト(ピース・フィールド・ジャパン主催)の受入れ(8月):
イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れ、清泉寮での宿泊・食事、ポール・ラッシュ博士の精神や環境教育事業、保育事業を学ぶプログラムを提供した。
- (6) 北フィリピン青年育成事業への協力
コーディネータ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)の森林保全事業への協力
現地の環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しました(9~12月)。
また、現地森林保全事業への支援を行い、これまで支援してきた現地事業で育成・収穫された有機栽培コーヒーを買い取り、協会内で消費・販売した(通年)。
- (7) 国際交流団体・公的機関との連携(通年)
- (8) ウェブサイトを通じた情報発信(通年)

2. 地域連携事業

(1) ポール・ラッシュ祭~八ヶ岳カンティフェア~2019の開催

ポール・ラッシュ精神の顕彰と草の根国際交流の実践を広くアピールし、八ヶ岳に暮らす人々と八ヶ岳を愛する人々の結びつきを強めるため、北杜市をはじめ地域団体との協力のもと、10月19日(土)・20日(日)にポール・ラッシュ祭~八ヶ岳カンティフェア~2019を開催した。

(2) 地域連携業務

- ① フードバンク山梨や生長の家「子ども食堂」等と連携し、貧困な環境に置かれた子供たちの支援に取り組んだ。
- ② 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地元各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の側面から地域連携に取り組んだ

公益 V. 保育事業

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森のほいくえん」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行った。また、キープ協会の公益事業の中でも、地域社会とのつながりを深めるキーステーションとして、地域との交流事業にも積極的に取り組んだ

1. 保育の質の向上

「キリスト教保育」は週に一度は教会での礼拝を行い、職員が礼拝での聖話を子どもたちにするために、司祭との勉強の時間を持ち、祈る事の大切さを学んだ。「森の保育」「野外におけるリスクマネジメント」は園内研修として、フィールドでの研修を含め、6回の研修を行いました。また、外部研修にも参加することができた。

2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5歳児を二つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合える場作りとして行った。0・1・2歳児も年齢別では無く、成長に合わせて2グループに分けての活動を行った。「森の保育」は一年中を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

3. 自然のリズムを大切にした食事（給食）の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。また、園児とは保存食や森でのクッキングを通して、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。

4. 他部署（自然学校及び環境教育事業部）との連携

「森の楽童」の実施については自然学校や環境事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用して行った。

5. 園舎内及び周辺環境整備

職員や保護者、また地域の方々と環境整備の日を設け、定期的に環境整備を行った。また、専門家に作業を依頼し、アドバイスをいただきながら作業を行った。

6. 視察・研修の受け入れ

年間で20団体・約350人の視察・見学を受け入れた。

7. 保護者や地域の方々との協働

保護者の協力のもと、「森の楽童」は年に5回行い、「水曜文庫」（「文庫活動」）は月に2回行った。

8. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」は年3回行い、その都度卒園児が保育園で交流を深めた。

収益Ⅰ．製販事業

キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2019 年度	2018 年度	前年比
売店	292,950	316,965	92.4%
ソフトクリーム	146,386	157,304	93.1%
飲食	78,373	78,465	99.9%
合計	517,709	552,734	93.7%

全国的な天候不順がハイシーズンに集中し、前年を上回ることが出来ませんでした。ただし、清泉寮ジャージーハットが中心的施設として機能しており、全体的な減少幅を最小限に抑えることが出来た。とくに、飲食部門およびベーカリー部門は入込みに対してプラスで推移しました。最終的には前年比 93.7% (予算比 90.8%) という結果に終わった。

2. 重点業務

2019 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- 清泉寮ジャージーハットを中心とした各店舗間の連携
- 清泉寮ジャージーハットにおけるお客様の利便性の向上と滞在時間延長
- 清泉寮周辺および店舗周辺の環境美化活動
- 接客・サービスの質を高める職員研修

3. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通りである。(重複する重点業務を含む)。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット (清泉寮パン工房含む)・清泉寮ファームショップ・清泉寮セレクトショップ・清泉寮新館売店の計 5 店舗を運営
- ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開

- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による 複数店舗利用促進
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 飲食部門に於いては「人と地球の健康」をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- 清泉寮ジャージー牧場産の牛肉を使用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- 子供向け設備・サービスの充実
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- 収入に応じた支出管理の徹底
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理

4. 出張販売

場所	事業名	期日
DCMくろがねや稲城押立店	出張販売	6/1～6/23
甲陵高校学園祭	出張販売	6/23
東武百貨店船橋店	Funabashi パンカフェ	6/27～7/3
長坂スポーツ公園	北杜ふるさとまつり	8/4
東武百貨店船橋店	につぼんの味	10/17～10/23
あべのハルカス近鉄本店	秋のパン&スイーツフェスタ	10/23～10/29
羽村市富士見公園	羽村市産業祭	11/2～11/3
DCMくろがねや稲城押立店	出張販売	11/9～12/8
東武百貨店池袋店	IKEBUKURO パン祭	11/13～11/19
山梨県立美術館前広場	ミュゼマルシェ	11/30～12/1
京王百貨店新宿店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/8～1/21

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計（税別）
11 件	16,445 千円	2,182 千円	18,627 千円
前年 13 件	17,185 千円	1,662 千円	18,847 千円
前年比	-740 千円／95.7%	+520 千円／131.3%	-220 千円／98.8%

収益Ⅱ．ホテル事業

1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、一般のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受け入れについても積極的に行った。

- (1) 客室稼働に応じた多様な宿泊プランの設定、コテージのインターネット環境の整備など、宿泊稼働に繋がる施策を実施し、新たな顧客の掘り起こしを図った。
- (2) 地域の学校や企業、団体への利用に向けての営業を強化し、入社式などのイベントや、忘年会、食事会、謝恩会などの獲得に繋げた。
- (3) レノックス礼拝堂や黙想館といった清泉寮の特徴を生かしたブライダルの獲得を推進し、同時に衣装や着付け、装花など関連分野のコーディネートも行ったことにより、売上の増加を図った。
- (4) 企画部との連携を強化し、宿泊利用へ繋げることを意識した **WEB** のリニューアルと頻度の高い更新を行った。また、清泉寮が宿泊施設であることを強くアピールした季節ごとのポスターの掲示、地域への紙媒体への広告、インターネットや **SNS** を活かした効果的な情報発信を継続することで、清泉寮の利用拡大はもとより、財団の他施設や商品・サービスの利用促進や財団の理念の周知による支援者の獲得に繋げた。

本部(管理部門)

企画

1. 企画関連業務

(1) 法人の各事業部に関する運営等の計画策定・管理

各部のイベント・季節の催し等年間計画表を作成し、運用管理した。

また、夏・冬ギフトセット販売強化のワークグループ事務局として活動した。

2. キープ協会全体の情報発信体制の強化

(1) マスコミや各種メディアへの積極的な発信

TV・新聞各社へのプレスリリース、WEB ニュース配信サービスや観光情報ポータルサイト等への情報発信、キープ協会 WEB サイトの積極的な更新と SNS での情報発信等を行った。

また、雑誌掲載や TV 番組取材等の対応を行った。

<対応実績>

カテゴリ	件数
大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	30
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	39
情報 WEB サイト、アプリなど	36
新聞(一般、県内紙など)	24
TV 番組(在京キー局)	7
TV 番組(ローカル)	9
BS・CS、ケーブル TV 番組	2
ラジオ番組	3
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	3
広告出稿	10

(2) キープ協会内の案内ツール・標識等のサインの整備

各月のイベント情報や施設案内パンフレット等の印刷物の作成と発行、各部署が作成する印刷物の管理等を行った。

また、誘導サインや施設名サインを作成した。

3. 募金の管理業務

(1) Friends of KEEP 会員組織活動

① 会報「清泉寮通信」の作成と発信

a. 清泉寮通信と年度収支報告書を 4 月に配信した。

b. 2018 年度キープ協会維持会員の芳名パネルを作成して、清泉寮本館案内所前に掲出した。

<会員実績>

・キープ協会維持会員(個人)・・・296 名(前年対比+8 名)

・キープ協会維持会員(法人)・・・19 社(前年対比±0 社)

・清泉寮クラブ会員・・・617名(前年対比+41名)

②メールマガジンの作成と発信

清泉寮通信に、宿泊優待サービスを掲載し会員宛にご案内した。

(2)顧客名簿の管理等

Friends of KEEPの会員向けに清泉寮通信を送付するのに合わせて各事業部で管理している顧客等の個人情報を利用し約3,000名に対して清泉寮通信を郵送した。

総務

1. 職員教育訓練業務

(1)業務への取り組み意欲と資質の向上を図るため、各種研修情報を発信し教育訓練を拡充した。

①接客サービス向上等の研修

②新入職員・若手職員対象フレッシュマン研修

(2)キープ協会の設立運営理念や歴史的経緯の理解のための研修の実施

①全職員を対象に、キープ協会の設立運営理念や歴史的経緯への理解を深める内容で実施した。